

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく申し上げます。
季報第2号が出来ましたのでお送りいたします。

〔昨夏(8/14)有志の会が巡った葛城山麓の神社の御祭神について(つづき)〕

(1)一言主^{ひとことぬし}神社

「いちごんさん」といわれ広く親しまれている神社である。御祭神については古い書物に次のように書かれている。

①古事記には：

雄略天皇が葛城山に登っていると、向こうの山の尾根づたいに天皇と同じ装束をした行列が登ってゆく。天皇が「私のほかに大和には天皇はいない。そちらは誰であるぞ」と問わしめた。ところが向こうの山の行列からも天皇が仰せになった言葉と同じ言葉が返ってきた。

天皇は大変怒って矢をつがえ、従者の百官ことごとくも矢をつがえて構えたところ、向こうの山の行列の者たちも同じように全員が矢をつがえて構えた。天皇が「名を名乗らねば矢を放たん」とおっしゃると、向こうの山の行列から「吾は悪事(マガゴト)も一言、善事(ヨゴト)も一言、言離(コトサカ)の神、葛城の一言主の神」と答えた。

天皇は、刀、弓矢をはじめ百官の衣服を脱がせて献上し、ひれ伏した。・・・

②日本書紀には：

雄略天皇は葛城山で一言主の神とともに矢を放って狩りを楽しんだ。・・・

③続日本紀には：

雄略天皇が狩りをなされたとき、天皇が怒って神^{*}を土佐に流した。・・・

^{*}この神は高鴨の神とも一言主の神とも書かれている。

④釈日本記には：

天皇大いに怒って神を土佐へ移した。それを天平八年に高鴨朝臣田守ら奏して高宮(葛城)の岡の上に迎え鎮め奉る。・・・

(2)葛城坐火雷神社（別名・笛吹神社）

古代大和政権が成立する前に葛城山系を中心に一大王権を成していた葛城族が政争に巻き込まれ急速に分解し移動してゆく。尾張の国、近江の国、山背の国などへ移動した集団や、大和の国にとどまり後発の大和政権に「^{ふえふきのひうじ}笛吹連」
として仕えた集団もある。このうちの、当地に残り笛吹き^{ふえふきのひうじ}の連を名乗った一族が当神社の祭祀を連綿として司って来られ、現在に至っている。社殿の敷地の背面に直接した古墳があり、豪族と古墳と神社の関係がよく表されている神社である。

尾張の地へ移動し分派した一族（尾張族と称する）はその地で^{ますみだ}真墨田神社を祀りその土地を開拓した。さらにその後、皇室の社としてその地に建てられた熱田神宮の祭祀をも司るようになり、現在に至っている。

二回にわたりカモ族と関係のある葛城山麓の古社を巡りましたが、これらの神社の神前に立つとき、とても懐かしい気持ちになること、また、澄み切った凜としたなかにも私たちをあたたく包み込んで下さるような気持ちになることは、新しい発見であったと思います。

歴史的にみると、①高鴨神社、御歳神社（高照姫）、鴨都波神社（下照姫）、鴨山口神社などはカモ族の神社であり、②^{たかまてこ}高天彦神社、一言主神社は葛城族の神社とされ、③前記の笛吹神社は尾張族の神社とされていますが、この三氏族は金剛山、葛城山、二上山系の山麓に住み分けられた、同族関係のある豪族であったと考えられます。

しかし疑問に残るのは、高鴨神社に現在祀られている^{あそびすまひこちのひこ}阿遲須岐高日子根命と出雲地方の関係です。出雲の地には、出雲大社のほかにさらに古い神と言われる^{かみひすし}神魂神社もあり、賀茂との関係が想像されるところです。先般出土した加茂岩倉遺跡の銅鐸にも関係があるのかもしれない。

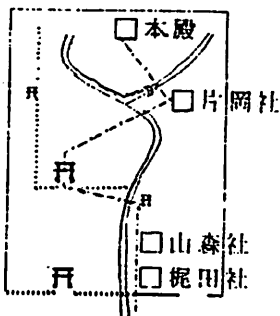
ある学説によると、銅鐸の出土地にはカモとミワ（三輪）が存在する場合がありますと指摘されています。カモ族、ミワ族、イズモ族の関係も勉強したいところです。



第一回目として、新年にあたり賀茂の社家で行われている行事やきまりごとを調べてみました。ここに掲載しましたものは、何軒かの方から聞いたうちの共通する部分であり、各家それぞれに違うところがあると思いますので、その違いや行事のいわれなどお知らせ下されば幸いです。

〔賀茂社家の元旦行事〕

- (1)男子は禊ぎをする。
- (2)神棚と庭の祠に若水と神饌を供える。
- (3)新年の寿詞を奏し、家族全員が拝礼をする。
- (4)お屠蘇、大福茶、お雑煮で家族全員が祝う。
- (5)神社参拝をする。その順序は、
 - ①久我神社
 - ②上賀茂神社
梶田社→山森社→片岡社→本殿
 - ③大田神社
 - ④下鴨神社



各神社ご祭神

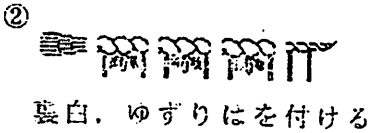
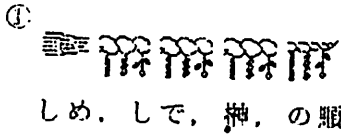
- ①久我神社 賀茂建角身命
- ②・梶田社 瀬織津姫神
- ・山森社 素戔嗚神
- 稲田姫神
- 田心姫神
- ・片岡社 玉依比売命
- ・上賀茂社 賀茂別雷神
- ③大田神社 天鈿女命
- ④下鴨神社 賀茂建角身命
- 玉依比売命

〔賀茂社家の元旦料理〕

- お雑煮は白味噌仕立てで、雑煮大根、かしらいも（こいもを入れる家もあるようです）、丸餅を入れます。花かつおをかけていただきます。
- おせち料理
 - 壱の重・・・口取り（縁起もの）
 - 黒豆、数の子、ごまめ（田作り）、たたきごぼう、くわい、きんとん、紅白かまぼこ、う巻き、龍皮巻きなど
 - 弐の重・・・酢のものなど
 - 紅白なます、花れんこん、かぶらの柚子漬けなど
 - 参の重・・・お煮しめなど
 - 棒だら、ごぼう、金時人参、こいも、竹の子、こんにゃくなど

[賀茂社家の正月のお飾り]

●しめ縄（神棚、庭の祠、門）



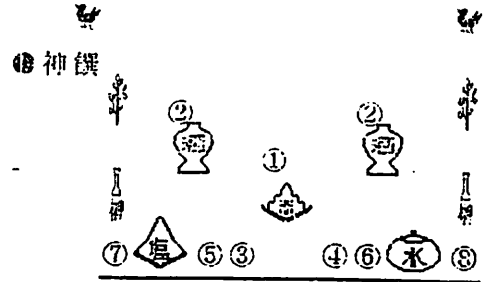
①または②が使われている。
前号より詳しくなりました。

●輪かざり（井戸、手洗、部屋）

裏白、ゆずりは、を付ける。

●門松

神が宿るとされる根付き松



- ①②③③④④⑤⑤⑥⑥⑦⑧
米酒餅〃魚〃野干果〃塩水
菜物実

米を中心に中から外へ並べる
左が上位とする。その数は祭りの
規模によってきめる。

[報告]

次回（平成9年8月17日(日)）に合同で参拝を計画しています八咫鳥神社（奈良県宇陀郡榛原町高塚村）を、予備調査のため11月10日に有志の方々4人が訪問しました。宮司様は兼業のためご不在でしたが、地元の親切な方々に直接お会いできました。神域の周辺には、今もなお大切に保存されているいくつかの塚（犬塚、馬塚、弓張り塚、高塚など）が存在し、その中の一つにたけつのみのみこと武角身命の墓と称されているものがあるとのことでした。地元の人々が一生懸命にこの神社と塚とを守っていて下さるのを知り、大変感激しています。

そのほか、有志の方々の中からは、丹波の地（兵庫県氷上郡上町）に鎮座するかんの神野神社（伊賀古夜日売命—武角身命の妃）や丹後の葵祭の社とも称されるこの籠神社への参拝もしてはどうかというご意見も出ています。

編集後記***

発行にあたり、多くの方々の快いご協力を頂きましたことを心より感謝致します。ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

また、ご意見、ご感想などお寄せ下さい。お待ちしております。

<連絡先>

〒603 京都市北区上賀茂山本町45 TEL 075-791-6679 北大路 元 顕
〒651-11 神戸市北区南五葉5-4-34 TEL 078-592-4634 西池 成 晃